うさぎとかめの通信

上越市立高田幼稚園

（園長室だより）　１０７周年
令和５年１０月３日　　第１８６号

HP の QR コード

「思い→体験→表現」は、幼児、児童、生徒に一貫する遊び学びの基本!

☆主体性を大事にする幼児教育☆

暑い暑い９月でしたが、後半ようやく３０℃を下回る日が出てきました。子供たちは、天候を見ながら園庭やお部屋で遊んでいます。

年長の子供たちは、１学期から巨大迷路づくりを楽しんでいます。教頭先生の「上越教育大学の中に入ったら迷路みたいで迷ちゃった」という言葉から、「面白そうだ自分たちでも迷路を作ろう」と始まった巨大迷路作り。2学期には、絵具で色を付けてみたり、新しい部屋を作ってみたりと、迷路作りを楽しんでいます。子供たちの想像の世界がどこまでも続いているようです。

この集中力と持続力は、どこから来るのでしょうか？子供たちのやる気を引き出し、子供たち自身が想像の世界を広げていくように、何か担任が仕掛けをしているのではと聞いてみました。

【子供たちがわくわくする環境を作る】

子供たちの身近なところに迷路があるように、簡単に片付けたりせずに出しておいたそうです。部屋中が迷路になっている中で、子供たちは遊んだり給食を食べたりしています。時には、食事をしながら、「ここまで進んだね」「次はこうしたい」というような会話が自然と出てきます。迷路の中で生活しているから、見えてくる気づきがあります。

１学期に子供たちが「こんな迷路がいいよね」と話をしていました。担任は、夏休み中に、一部の迷路に段ボールの屋根を作っておきました。それを見た子供たちは、「もっと作りたい」「回転ドアもできるかな」「上から段ボールをつるしたい」などと、発想を広げさらにわくわくしていたようです。

【「自分たちで！」の気持ちを援助する】

発想が広がると、子供たちは材料を集めてイメージに向かって作り始めました。「〇〇をつくりたい」というわくわくする気持ちがあるからこそ、それを作るための材料が足りないという

問題に突き当たりました。1 学期には、教頭先生や担任の先生が大きな段ボールを用意してくれていたのですが、その時は「段ボールをもらいに行かなくちゃ」と子どもの方から声が出たそうです。担任は、その声をチャンスと捉え、「段ボールはどこにあるの？」と投げかけたそうです。「ケーズデンキ」「ムサシ」と生活の中での経験をもとに子供たちは意見を出します。「ケーズデンキって、何屋さん？」「電気屋さん！」「じゃあ、幼稚園の周りに電気屋さんがあるかな？」「探しに行ってみたい」「探しに行こう！」と、子供たちが自分たちで段ボールをもらいにいくという気持ちを大事にして、話し合いの中で、どのようにすればできそうかという見通しをもたせ、まち探検に出かけています。子供たちは、わくわくしたことでしょうね。

※高田幼稚園は、異年齢の関わりもたくさんあります。自由遊びの時間に迷路遊びをしていた年少さんから「なんだ、この迷路簡単じゃん」と言われたことも、子供たちのやる気に火を付けたようです。

【「自分たちで！」の気持ちを最後まで援助する】

気温が少し下がってきた日に、地域探検に行くことにしました。「電気屋さんないかな？」「ああ、これは裁判所だ」と探しながら歩いて行くと、「でんき」の文字が！ありました電気屋さん。子供たちは、電気屋さんで「大きな段ボールありませんか。段ボールをください。」と自分たちでお願いし、協力して段ボールを運びました。みんなとってもいい笑顔ですね。

主体的な気持ちを大事にしているからこそ、飽きることなくこれでもかと言うくらいの粘り強さや集中力、そして発想を広げる思考力を育むことができています。そして、その主体的な気持ちを育むために、担任は子供たちがわくわくする環境作りを心がけていることが分かります。

今も巨大迷路作りは続いています。私もどのようなものができるのか楽しみです。もしかしたら、子供たちにとってわくわくが続く限り、ゴールはないのかもしれません。

高田幼稚園では、これからも主体生を大事に育む教育を行っていきます。